

建築計画委員会活動報告

2008年度-2009年度

組織編成

春季学術研究集会(2008台北・2009ハノイ)

技術部門設計競技

本委員会シンポジウム

特別研究委員会

大会協議会・懇談会・PD

研究成果公表(出版)

各小委員会

組織編成・改組

□ 建築計画委員会の組織体系の整理

□ 運営委員会制の導入

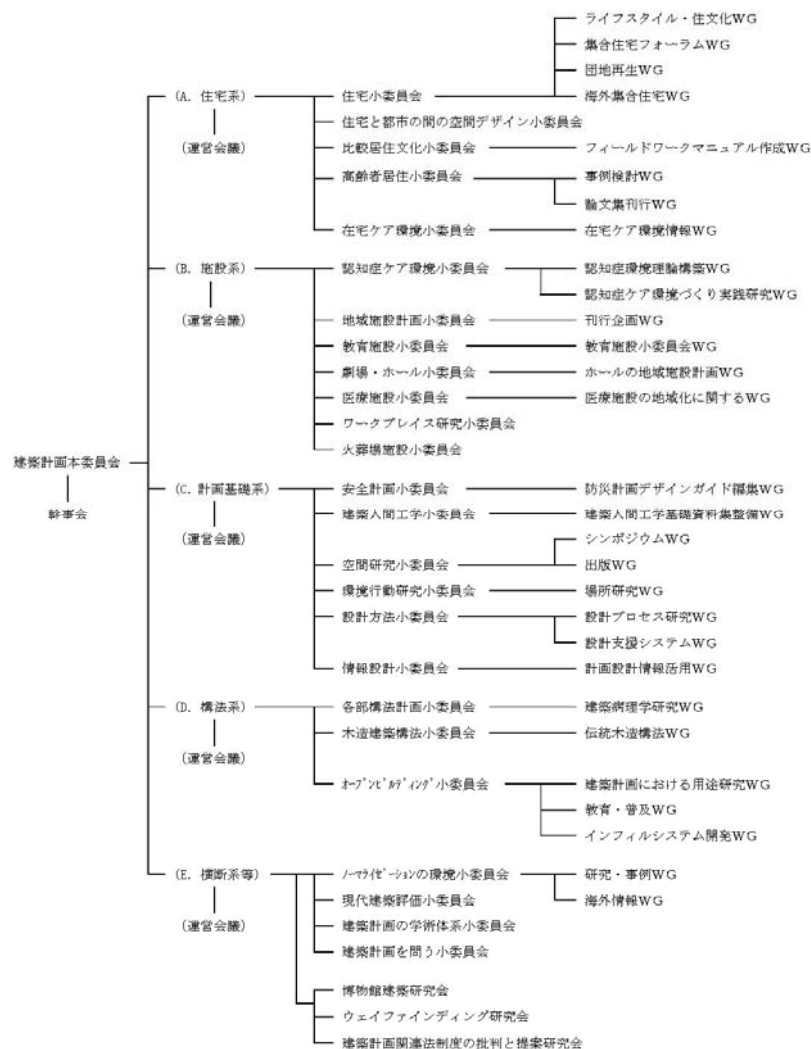
住宅計画・施設計画・計画基礎・構法計画・設計計画

□ 建築計画委員会本委員会の機動性の強化

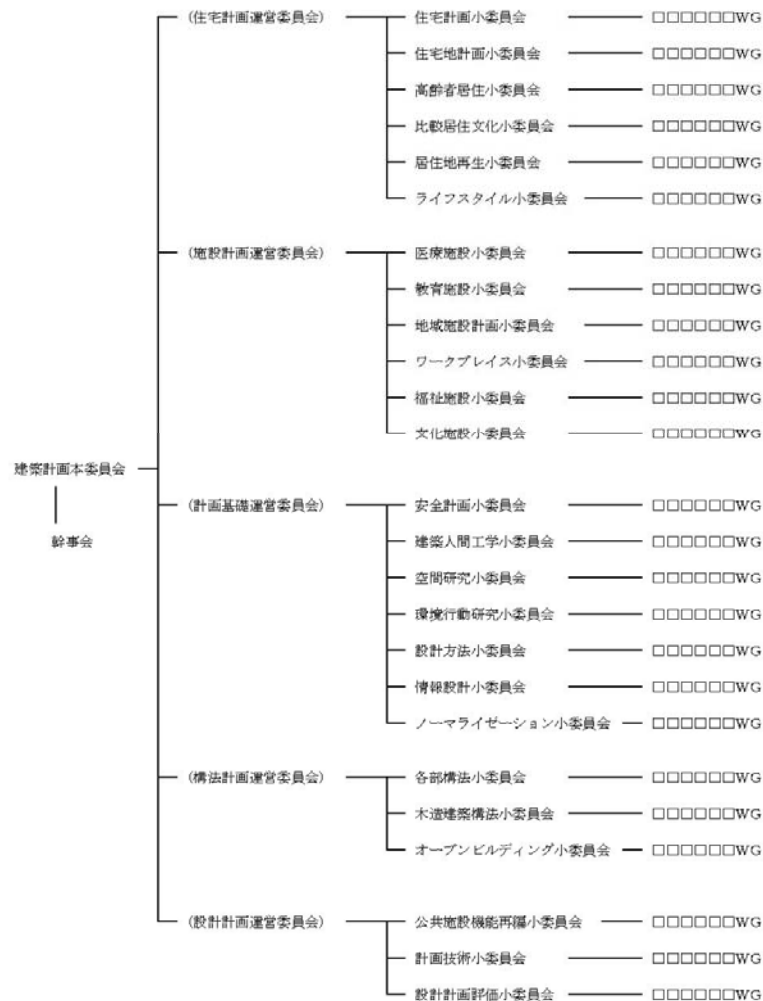
建築計画委員長1名：幹事5名：運営委員会2名×5＝10名：支部委員8名：委員長指名委員6名以内：計30名以内

組織編成・改組

2006 年度 建築計画委員会 組織構成



2008 年度 建築計画委員会 組織構成(案)



春季学術研究集会2006-2009

□ 都市・建築の再生と建築計画－韓国ソウルの清溪川(チョンゲチョン)復元と近・現代建築(2006ソウル)

- ①6月2日(金):○講演会(逐次通訳付き) **会場:漢陽大学校工科大学新素材工学館610号室**
- (16:45-17:00)ご挨拶:徐鵬教(大韓建築学会建築計画分科委員長)
- (17:00-17:30)韓国における建築計画の現状:朴勇換(漢陽大学教授)
- (17:30-18:15)近代化遺産の保存と再生:金泰永(清州大学教授)
- (18:15-19:00)韓国における都市再生の試み(清溪川復元):許煥(ソウル市住宅局長)
- 19:30~21:30 懇親会(漢陽大学同窓会館)



- ②6月3日(土):
- -09:00 タワーホテルフロント集合
- -09:00~11:30 徳壽宮(ドクスグン)とその周辺の近代建築
- ソウル私立美術館(旧京城裁判所)/貞洞第一教会/徳壽宮/韓国聖公会聖堂ソウル本館
- -11:30~13:00 清溪川視察
- -13:00~14:00 昼食
- -14:30~15:30 秘苑(昌慶宮)
- -15:30~17:30 ソウル北村(都市型韓屋)
- ③6月4日(日):
- -09:50 タワーホテルフロント集合
- -10:30~11:30 サンスン財団リウム美術館
- -11:30~13:00 ソウル森(Seoul Forest Park Conservancy)
- -13:00~14:00 昼食後解散



春季学術研究集会(2007北京)

□ 「古都の変貌と建築計画」

□ 6月1日(金):北京集合

□ 場 所:中国建築学会 13:00-15:00 王晓京先生 中国建筑学会副秘书长 张百平

□ 周暢「北京的新建筑」講演

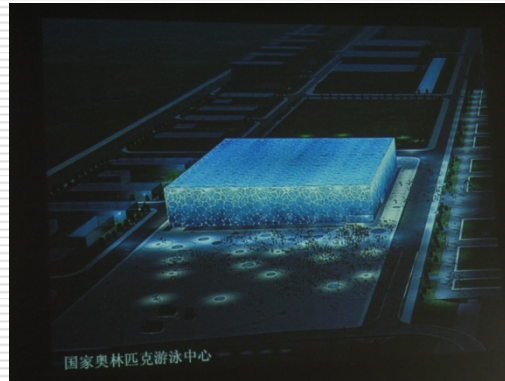
□ 場 所:北京大学プログラム: 主旨説明 布野 修司

講演(1):北京胡同の保存と再生 呂 斌(北京大学 環境学院 都市・地域計画系 教授)

講演(2):最近の北京の建築シーン 松原 弘典(松原弘典建築設計事務所 主宰/慶応義塾大学 総合政策学部 助教授)

春季学術研究集会(2007北京)

□「古都の変貌と建築計画」



春季学術研究集会(2008台北)

- :「社区総体營造Community Based Development(台湾まちづくり)の課題」(台湾)
 - 台湾大学建築與城郷研究所＋芸術史研究所學術交流會議會議「日本與台灣社區營造的對話：地震災後重建,社區營造與地域建築師(Town Architects)」小林郁雄(淡路震災とその後の街づくり—台湾921大震災との比較—),宇野求(日本の街づくりのこれからの課題),布野修司(日本におけるタウンアーキテクトの可能性)(通訳:張瑞娟,宗田昌人),喻肇青(中原大学),曾旭正(台南芸術大学),黄聲遠(建築家) 夏鑄九(城郷與建築研究所)
 - 社区総体營造の現状と課題について,陳其南(国立台北芸術大学教授・元文化建設委員会主任),台湾現代建築の動向--李祖源,姚仁喜,謝英俊三人建築家を例とし,阮慶岳(実践大学副教授・建築評論家),店屋の保存と再生について徐裕健(華梵大学教授・建築家)
-

春季学術研究集会(2008台北)

□ :「社区総体営造Community Based Development(台湾まちづくり)の課題」(台湾)



春季学術研究集会(2009ハノイ)

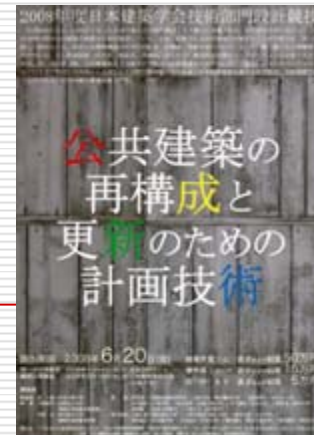
- 「ハノイの変貌:歴史・環境・共生と建築計画」
 - ハノイ建設大学都市建築研究所所長・ドアン・ミン・クォイ
 - 「ベトナム現代建築の動向」 ウェン・ロン氏(ベトナム建築家協会広報部部長)
 - 「ハノイ旧市街の保存活動」 ファン・トゥイ・ロアン(ハノイ建設大学都市建築研究所副所長)
 - 昭和女子大学・内海佐和子(司会):通訳、ノ・ダン・ベト
 - 都市建築視察 「ドンラム村」「ハノイ36通り地区」「ベトナム民族学博物館」
 - オプショナル・ツアー:ホイアン、ミーソン
-

春季学術研究集会(2009ハノイ)

□ 「ハノイの変貌: 歴史・環境・共生と建築計画」



技術部門設計競技



- 公共建築の再構成と更新のための計画技術
- 21世紀をむかえ、3,000以上あった日本の地方自治体の数は、1千数百に再編された。自治体の合併にあたって、各自治体は既存公共建築の統廃合を検討推進している。今後、新築される公共建築は半減することが予想され、また財政上の理由からも、既存公共建築機能の有効な再配置、再構成、更新が求められている。その際、魅力ある建築再生のためには、1)計画技術(住宅系、施設系、基礎系)および2)構法計画技術のコンビネーションが必要不可欠である。国、地方自治体、公共事業体などが保有する既存の公共建築をとありあげて、上記1)、2)のコンビネーションによる、市民と自治体から支持される持続可能で魅力的な改築の計画技術提案を募るものである。

2008年度日本建築学会 技術部門設計競技

条件

- 1—公共建築の再構成と更新の
設計計画方針と実施過程が
具体的に表現されていること。
- 2— 例えば
 - a) 市町村合併に伴って、既存の庁舎を
どう再構成、再利用するか。
 - b) 少子化に伴って統廃合される
教育施設をどう再構成、再利用するか。
 - c) 建築計画・プログラムと実態との
不整合により、うまく機能していない
施設をどう再利用するか。
- 3—対象とする建築物は実在のものとする。以下についての革新性、
独創性、魅力度などを評価軸とする。
 - a) 地方自治体と市民へのリアリティ
 - b) 計画技術
 - c) 構法技術

2008年度日本建築学会技術部門設計競技

21世紀をむかえ、3,000以上あった日本の地方自治体の数は、1千数百に再編された。自治体の合併にあたって、各自治体は既存公共建築の統廃合を検討推進している。今後、新築される公共建築は半減することが予想され、また財政上の理由からも、既存公共建築機能の有効な再配置、再構成、更新が求められている。その際、魅力ある建築再生のためには、1) 計画技術(住宅系、施設系、基礎系)および2) 構法計画技術のコンビネーションが必要不可欠である。四、地方自治体、公共事業体などが保有する既存の公共建築をとりあげて、上記1)、2)のコンビネーションによる、市民と自治体から支持される持続可能な魅力的な改築の計画技術提案を募るものである。実際建設されたもののみならず計画案も審査対象とする。

公共建築の 再構成と 更新のための 計画技術

提出期限 2008年6月20日(金) 最優秀賞 1点 : 賞状および副賞 50万円
第一次公開審査 2008年7月14日(月) 於 建築会館 優秀賞 2点以内 : 賞状および副賞 15万円
最終公開審査 2008年9月19日(金) 於 日本建築学会大会 (広島大学) 佳作 若干 : 賞状および副賞 5万円

審査員

委員長 南 一雄(芝浦工業大学) 委員 岡田 勇(日産設計総合研究所) / 金田亮宏(東京工業大学) / 前原紀和子(みかんくみ) /
幹事 内野修司(滋賀県立大学、建築計画委員会委員長) 杉本龍多(広島大学) / 西谷昌弘(筑波大学) / 竹下博司(九州大学) / 渡邊 浩(横浜大学) /
藤尾雅一(西京大学) / 六角正尚(日本設計社) 原田雅一(西京大学) / 六角正尚(日本設計社)
専門委員 大原一英(横浜国立大学) / 小野田義明(東北大学) / 菊地康嗣(九州大学) /
宇野 宏(東京理科大学、建築計画委員会幹事) 清水裕之(名古屋大学) / 原田百之(日本人大学) / 藤井健行(東京工業大学) / 野誠晋也(早稲田大学)

提出先: 〒105-8414 東京都港区芝5-26-20 (旧日本建築学会会館)「技術部門設計競技」係 TEL: 03-3456-2057 / FAX: 03-3456-2053 / E-mail: mai@aij.or.jp
主催: 日本建築学会建築計画委員会 後援: 国土交通省、建設省、(財)公共建築協会、(財)建築安全センター

応募総数50作品

最優秀賞

・旧百貨点ビルの市庁舎コンバージョン計画

優秀賞

・ストアとコンシェルジュによる「公・共」空間計画・マネージメント技術の展開
ー長谷戸小学校学区を近隣単位とした恵比寿駅西側地区を事例にー

・TERKAOYA 真駒内

佳作

・サテライトステーション

・月夜間「つきよま」

・nagara改修 住みながら変わるイエ

・野菜小学校

・国立岡山病院病棟から福祉の総合拠点へのコンバージョン

ー岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 きらめきプラザ

旧百貨店ビルの市庁舎コンバージョン計画

北海道オホツクの中心都市・人口13.2人の北見市、旧北見駅前に立地する旧百貨店ビル(2007年11月閉店)を市庁舎・商業施設の複合ビルへのコンバージョン計画

地域と建築物の概要

- ・2006年3月新北見市(旧北見市、留辺町、東足利町、東足利町、東足利町)の市制合併。市域4,098ha、面積は全道4位、道内1位。
- ・現市庁舎は旧北見市市庁舎跡地の地上に位置し、1955(昭和30)年築の瑞穂で、現中央図書館は西に2km、築40年、双方とも手狭で老朽化が著しく、以前より移転が検討されていた。
- ・2006年北見市都市再生推進機構において再開発や複合施設等の主要公共施設をより市民の利便性の高い旧百貨店跡地を含む中心市街への移転、現市庁舎敷地は旧百貨店跡地活用を提案。(参見:本誌建築家)
- ・2007年5月旧北見駅前、国道5号線に面した交通至便の商業百貨店(1962年市街地再開発事業の4-17として出店)が瑞穂を廃止、瑞穂は一旦中断する。2007年11月旧百貨店跡地閉店。
- ・提案者は「北見市都市再生コンソーシアム」として関与し、市に百貨店跡地の活用と旧百貨店跡地活用(1962年)の再開発の取得を促す。
- ・2007年12月議決承認後取得。
- ・引き続き、当建築物の市庁舎へのコンバージョン計画を市に提出。市庁舎を建設。5月議決にて公決。(参見:本誌建築家)
- ・市庁舎、新市の芸術文化ホール(竣工1999年)、中央図書館等、旧駅舎、公共駐車場等の有機的連携を図ることを目指している。
- ・同時に、現市庁舎敷地を旧百貨店跡地の建設用地として活用し、地域振興の充実、市民生活の充実に努めることも目指している。

コンバージョン計画方針

- 1 建築物活用方針
 - ・現市庁舎テナントを低層部(1~3階)に集約。駅前のにぎわいを確保。2階、3階の一部に市民交流ホース・エントランスを設ける。
 - ・構造面で問題のある高層部(7~12階)のホースを廃止。
 - ・現市庁舎の上層部(4~6階)を市庁舎業務フロアとして活用。
 - ・西側の旧瑞穂ビル(1~3階)を市庁舎業務フロアとして活用する増築棟(1~7階)とし、庁舎必要面積20,000㎡を確保。
 - 市庁舎、市民交流施設、商業(物販・飲食)の複合ビル
- 2 建築物の活用と構造補強、新築部の計画
 - ・建築物は1962(昭和37)年竣工の旧百貨店跡地による構造設計。市庁舎の増築と構造補強、新築部の計画。
 - ・市庁舎の増築と構造補強、新築部の計画。
 - ・市庁舎の増築と構造補強、新築部の計画。
 - ・市庁舎の増築と構造補強、新築部の計画。
- 3 計画補強・増築設計

建築物の意匠設計(概) / 都市空間への貢献

- 市民広場
駅前市民広場との一体化。広場と駅の周辺を歩行者空間化(歩行者専用通行可)し、地域イベントの場とする。通気は市民の憩いの場となる。
- ピロティ・コロシアム
駅前広場を拡張し、広場を囲むピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。広場にピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。

2階の市民ギャラリー

- ・歩行者専用通行可とする。広場にピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。

2階の市民ギャラリー

- ・歩行者専用通行可とする。広場にピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。

2階の市民ギャラリー

- ・歩行者専用通行可とする。広場にピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。

2階の市民ギャラリー

- ・歩行者専用通行可とする。広場にピロティ・コロシアムを連続的に配置。歩行者専用通行可とする。

【都市再生機構(概)】

- ・公共施設・商業施設の複合・再開発
- ・公共施設・商業施設の複合・再開発
- ・公共施設・商業施設の複合・再開発
- ・公共施設・商業施設の複合・再開発

【位置図】

【駅前周辺施設の歩行者ネットワークの連携】

【コンバージョン計画概要】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

【状況】

本委員会シンポジウム

□ 「公共事業と設計者選定のあり方

―邑楽町役場庁舎等設計者選定住民参加型設計提案協議を中心として―五十嵐敬喜、清水勉、パネリスト：石田敏明、小嶋一浩、藤本壮介、ヨコミゾマコト、山本理顕、於：日本建築学会建築会館大ホール、2007年3月16日

□ 西山卯三の計画学―西山理論を解剖する― 2008年1月15日(火)問題提起：西山卯三の都市住宅理論 住田昌二(大阪市立大学名誉教授・現代ハウジング研究室)／西山卯三の目指したもの 広原盛明(龍谷大学教授、京都府立大学名誉教授)／西山卯三と吉武計画学 内田雄三(東洋大学教授)ディスカッション：五十嵐太郎(建築雑誌編集長・東北大学准教授)・中谷礼仁(早稲田大学准教授)・司会：布野修司

□ 緊急シンポジウム「東京・大阪中央郵便局の文化財的価値」

本委員会シンポジウム＋パネル展示 西山卯三の計画学—西山理論を解剖する—

2008年1月15日(火)



- 主旨説明: 布野修司
- 問題提起: 西山卯三の都市住宅理論 住田昌二(大阪市立大学名誉教授・現代ハウジング研究室)／西山卯三の目指したもの 広原盛明(龍谷大学教授、京都府立大学名誉教授)／西山卯三と吉武計画学 内田雄三(東洋大学教授)
- ディスカッション: 五十嵐太郎(建築雑誌編集長・東北大学准教授)・中谷礼仁(早稲田大学准教授)・司会: 布野修司

発注者問題特別研究委員会

(建築計画委員会・建築経済委員会共同)

- 建築プロジェクトにおける発注者の役割と法制度上の位置づけに関する研究
 - 『建築プロジェクトにおける発注者の役割』特別研究委員会報告書 特別研究42, 日本建築学会, 2009年3月
 - PFIの諸問題
-

サステイナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト特別研究委員会

(都市計画委員会・農村計画委員会、まちづくり支援建築会議共同)

- 地域継承空間システムと都市建築・職能
- 「私の考える日本のサステイナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクトー地域固有の空間形成、まちづくりの仕組み・手法とその担い手像ー」、

基調講演布野修司「地域再生と建築の計画・設計：コミュニティ・アーキテクトの目標」他 2009年11月28日

大会協議会・懇談会・PD 2008年度(広島)

- 建築学会大会協議会:「公共建築の再構成と更新のための計画技術」
 - 研究懇談会「建築計画学の新しい認識とその方法ー建築デザインの変革の時代にー」
 - 建築計画・都市計画部門 研究懇談会:新たな担い手との連携による地域の再生
-

大会協議会・懇談会・PD

2009年度日本建築学会大会(仙台)

- 公共建築の再構成と更新へ向けての建築計画研究の意義
 - 徹底討論 住宅の「価値」とは何か
 - 大学における生活環境のノーマライゼーション
-

研究成果公表(出版)

- 『吊う建築—終の空間としての火葬場』 2008年度
- 『図解 火災安全と建築設計』 2008年度
- 『認知症ケア環境事典』 2008年度
- 『生活空間の体験ワークブック テーマ別◎建築人間工学からの環境デザイン』 2009年度
- 『フィールドに出よう！住まいと暮らしのフィールドワーク』 風響社、2010年7月
- 『劇場空間への誘い』
- 『多目的ホール舞台設計資料』（改訂版）
- 建築計画・設計のための「フィールドワークの進め方」
- 戦後学校建築計画の人物史



建築計画学史（建築計画本委員会）

- 序章 近代日本における建築学と建築計画学
 - 第Ⅰ章 建築計画学の成立とその起源
 - 第Ⅱ章 私の建築計画学史
 - 第Ⅲ章 建築計画学の展開
 - 第Ⅳ章 建築計画学論集
 - IV－1 建築計画論考とその時代
 - IV－2 建築計画の諸分野
 - IV－3 建築計画学関連論文著作再録解題
-
- 論文・著書リスト 年表

各小委員会報告

- 住宅と都市の間の空間デザイン小委員会
 - 高齢者居住小委員会
 - 比較居住文化小委員会活動報告
 - 地域施設計画小委員会
 - ワークプレイス研究小委員会
 - 認知症ケア環境小委員会
 - 火葬場施設小委員会
 - 建築人間工学小委員会
 - 環境行動小委員会
 - 設計方法小委員会
 - 情報設計小委員会
 - ウエイファインディング研究会
 - 安全計画小委員会
 - オープンビルディング小委員会
 - 木造建築構法小委員会
-

住宅計画運営委員会活動報告

住宅計画運営委員会には以下の6つの小委員会が所属しており、運営委員会はこれら小委員会の主査等代表者によって構成されている。活動は、小委員会編成の検討、小委員会間の活動、開催イベントの調整などである。

住宅計画小委員会
高齢者・障害者等居住小委員会
居住地再生小委員会

住宅地計画小委員会
比較居住文化小委員会
ライフスタイル小委員会

平成21年度大会において、住宅計画運営委員会企画の研究懇談会を催した。

テーマ:住宅の価値とは何か

期 日:平成21年8月26日

内 容:時代状況の転換期にある今を前提に、住宅の価値を
経済・デザイン・時間・共有の視点から論じる

住宅計画小委員会

2008～2009活動報告

○住宅系研究報告会の開催

（建築社会システム、都市計画、農村計画との連携）

○全国の集合住宅研究の出版企画と編集

（事例で読む現代集合住宅のデザインPART2）

○若手研究者（博士課程）の論文発表会の開催

○公開シンポジウムの開催

（少子高齢社会における家族と住まい）

○超高層住宅の将来問題の検討（5回）



大阪2「変容する計画的住宅地—大阪長屋群から千里NT、都心超高層マンションまで」
(1107:14名)

高齢者・障害者等居住小委員会 2008・9年度活動報告

- 活動目的
- 高齢者や障害者が地域で安定的・持続的な居住環境を構築するための建築環境の全体像と、それを具体化するための方法を明らかにする

- 2008年度
- 在宅ケア環境WG、高齢者居住WGの立ち上げ
- 活動計画の立案
- 2009年度
- 現地調査(見学会)の開催
 - 5月: 公団常盤平団地
 - 8月: 新潟県十日町市松代
 - 12月: 茨城県土浦市の場合

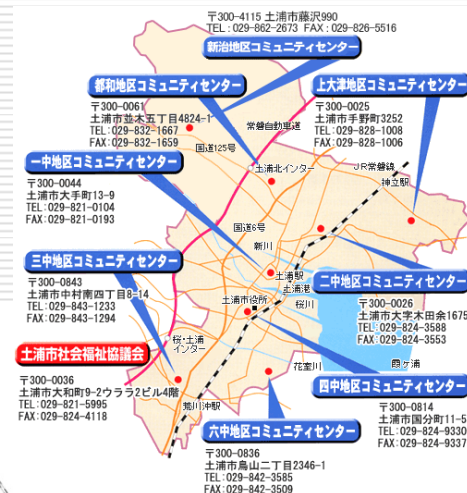
- 公開研究会の開催
- 「高齢者が地域に住み続けるために一様々な地域主体毎の取り組みの成果と今後の課題」



8月: 十日町市松代 研究会



5月: 公団常盤平団地 研究会



12月: 茨城県土浦 研究会

当小委員会では、激変する現代において居住文化を取り巻く状況をフィールドワークをもとに究明しています。

■2009年度の主な小委員会活動

①研究会等

7月3日・・・「非都市居住の課題と可能性」

11月20日・・・「歴史的居住環境の変容」

3月26日(2010年)・・・「衣食住のなかの住：南米の小社会からの視線」

②2010年度学会大会PDへのアプライ：「フィールドワークの未来形」。

③『フィールドに出よう！住まいと暮らしのフィールドワーク』
風響社、2010年7月出版予定。

■成果

①を通して、これまで当小委員会が対象としてきた地域の居住文化を取り巻く現在の状況を把握することができた。

②③を通して、建築計画とその教育におけるフィールドワークの意義を問い直す(予定)。

■課題

- ・懸案となっているWEB上での情報発信をすすめる。
- ・そのための情報を整備する。
- ・フィールドワークと建築教育についてフォーラム等の企画を立てる。



居住地再生小委員会 2008-2009年度活動

小委員会立ち上げ

08年活動計画:1)視点整理／2)研究・実践レビュー

小委員会活動①

居住地再生に関する視点の整理/居住地分類

研究・実践の蓄積の把握

小委員会活動②

居住地再生のフェーズ/サイクル/フィールド

◆財・コモンズ・都市構造と居住地・コミュニティ

居住地再生事例見学会(京都)・意見交換会

レポート作成

09年活動計画：研究と実践事例のデータベース化

小委員会活動③

居住地再生に関する社会的課題のまとめ

◆地域における居住/地方都市の固有性/到達点

今後の課題整理、次期小委員会への展開

◆2010年大会OS企画検討



参加者数:20名

[illegible]

研究・実践事例のデータベース化

ライフスタイル小委員会

2008～2009活動報告

- 小委員会 7回（シンポジウム等含む）の開催
委員による研究報告
- シンポジウム開催（住宅計画小委員会との共催）
「少子高齢化社会における家族と住まい」
—NEXT21における新たな試み—
参加者82名
- 見学会①開催
仙台市宮荒井住宅
参加者16名
- 見学会②開催
URひばりが丘団地
参加者29名



施設計画運営委員会 活動報告

2009年度

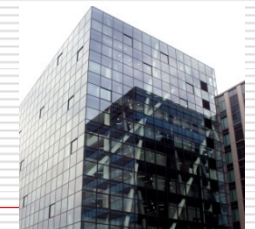
□構成(6つの各種施設種別の小委員会)
医療施設小委員会／教育施設小委員会／
地域施設小委員会／ワークスペース小委員会
福祉施設小委員会／文化施設小委員会

□主な活動

各専門分野の現代的なニーズに対応し、
研究会・先進施設見学会開催／出版活動

□出版

- ・2009年度中1冊刊行(福祉施設小委員会)
- ・各小委員会で編集が進行(脱稿1冊)



ワークプレイス小委員会 2008～2009年度活動報告

これまでの成果を出版物

「(仮)コミュニケーションを刺激するワーク
プレイスデザイン」としてまとめるための
議論と執筆中心に活動を行った。

■主な小委員会活動（2008年度15回、09年度13回開催）

○出版物作成のための活動

- ・ワークプレイスに関するさまざまな知見の整理と再定義
- ・先端的事例に関する調査・分析
- ・執筆活動と編集作業

○最先端のワークプレイス視察

- ・乃村工藝社本社ビル
- ・日産自動車先端技術テクノロジーセンター
- ・アクセンチュアみなとみらいオフィス
- ・その他、各委員が分担して視察した事例の情報交換

○2009年度建築学会大会・情報システム技術部門研究協議会

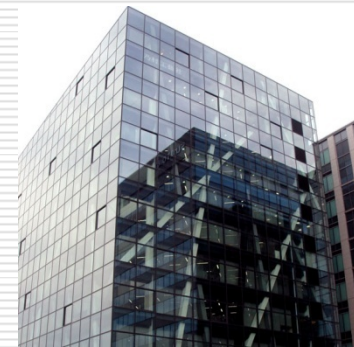
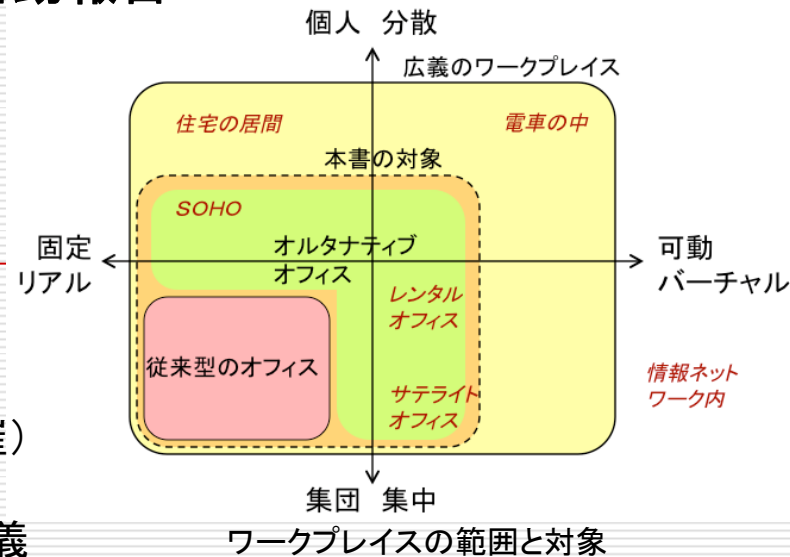
「ワークプレイスづくりの実践と新たな方向性」に企画協力、パネ
ラーとして参画

■小委員会の成果として、以下についてまとめた

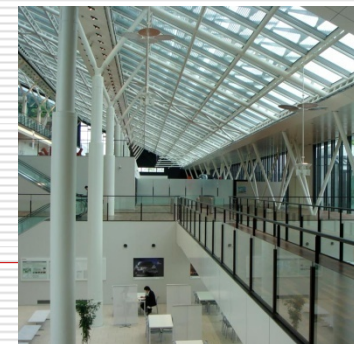
- 1) コミュニケーションを活性化するワークプレイスデザイン
- 2) オフィスビルに縛られないワークスタイルのあり方

■来年度の課題

出版物の完成と研究集会の開催



乃村工藝社本社



日産先端技術テクノロジーセンター

当小委員会では、**少子高齢化社会**における
福祉施設の新たな役割とそのあり方
に関する調査活動および普及活動を行った。

■今年度の主な小委員会活動

- 5月10日・・・**認知症ケア環境事典の出版**
- 6月 1日・・・施設環境づくり実践の研修会
- 6月 6日・・・施設環境づくり実践の研修会
- 6月 7日・・・施設環境づくり実践リーダー養成研修会
- 10月17日・・・公開研究会「共に暮らす、児童養護施設」
(空間研究小委員会共催)
- 2月20日・・・公開研究会「障害者福祉住環境の”これから”を考える」
- こども施設WG・・・認定こども園の現地調査および意見交換
(計6回)

■成果と課題

今後の大きな社会変化の中で、福祉施設に期待される役割とその在り方を探る。

- 1) **認知症ケア環境事典の出版とケア環境づくりの普及**
- 2) **認定こども園の事例整理と出版準備**
- 3) **障がい者施設の地域移行に関する検討**

下記2点を課題として、さらに議論を進めていく。

- 1) **地域と連携した活動事例の収集**
- 2) **新たな福祉施設モデルの構築と成果の出版**



施設環境づくり実践リーダー養成研修会



認定こども園の現地調査

文化施設小委員会活動報告

2008年度-2009年度



■09年10月「都市の遺産としての文化施設」

- ・シンポジウム＋東京文化会館大ホール見学会
- ・参加者数 83名：学会員外の参加者も多く参加し(36名)、建築学会の研究の成果を、社会に対して発信することができたと考えています。

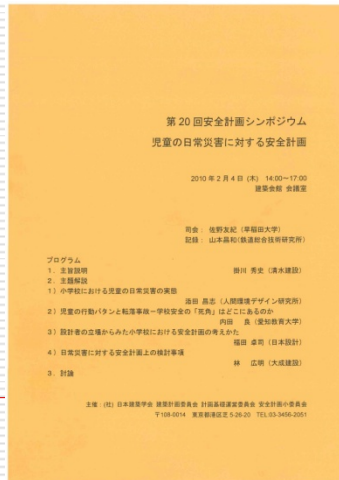
■出版企画

- ・「劇場空間への誘い」：本年発刊に向けて原稿整理中
- ・「多目的ホール舞台設計資料」：改訂版作成発刊に向けてワーキング中

建築計画委員会 計画基礎運営委員会 安全計画小委員会 活動報告(2008～09年度)

■ 転落、墜落等の日常災害に対する安全計画

- ✓ 小学校の児童を対象として調査を行い、日常災害に対する安全計画のあり方を検討した。
- ① 事故事例の収集・分析
- ② 設計事例の収集
- ③ 設計者へのヒアリング
- ④ 安全計画のあり方
- ✓ 委員会開催回数 9回(2008), 8回(2009)
- ✓ 第20回安全計画シンポジウム「児童の日常災害に対する安全計画」を企画・実施した。



- 2010年2月4日 14:00～17:00
- 参加者数 35名
- 主題解説:
 - ① 小学校における児童の日常災害の実態
 - ② 児童の行動パターンと転落事故
 - ③ 設計者の立場からみた小学校における安全計画の考え方
 - ④ 日常災害に対する安全計画上の検討事項

■ 防災計画デザインガイド編集WG

- ✓ 「図解 火災安全と建築設計」の編集・出版作業



朝倉書店
2009.3発行

■ その他

- ✓ 建築学会大会(2009)
建築計画部門OSを企画・実施
「行動特性の実測と避難行動シミュレーション」

建築人間工学小委員会 2008～2009年度活動報告

当小委員会では、**建築の安全性や快適性**の実現に資する**人間中心設計の知見**について、研究会により**拡張・展開**するとともに、書籍発刊により**整理と普及**を図った。

■主な小委員会活動

1) 委員会の開催 → 計12回(2008年度6回、2009年度6回)

2) 研究会の開催 → 計4回(2008年度2回、2009年度2回)

2008. 6.9 **生理計測による空間評価研究の可能性**:参加者数61名(空間研究小委・環境心理小委との共催)

2009.1.29 **「やりにくさ」の人間工学 —住宅の防犯設計への応用—**:参加者数25名

2008.10.9 **「もてなし」の空間計画 —非日常を楽しませるための演出—**:参加者数25名

2009.2.26 **航空機のインテリアデザイン —国産旅客機MRJの客室設計—**:参加者数20名

3) 新進研究者による研究発表会 → 計2回(2008年度1回、2009年度1回) *小委員会と同時開催

2008.5.16 **吉岡陽介(千葉大学・助教)**:探索歩行時に見られる特徴的行動と中心視および周辺視

2009.5.18 **岡田明(大阪市立大学・教授)**:人間中心設計におけるユニバーサルデザインの考え方と進め方

4) WGによる書籍の刊行 → 建築人間工学の研究知見を体験的に学ぶ初学者向けの演習本

『生活空間の体験ワークブック テーマ別◎建築人間工学からの環境デザイン』:彰国社2010.3月発刊予定

■成果

1) 人間中心設計の実践事例について、関連分野の研究者と**横断的に議論**する研究会を実施した。

2) 建築人間工学の既往の研究知見を**体験的に学ぶ初学者向けのワークブック**を発刊した。

■課題

1) 一時閉鎖中の**HPの再開**による情報公開

2) 関連研究領域との**横断的研究交流**の推進

空間研究小委員会 2008～2009年度活動報告

建築や都市において、空間を研究する方法論を探っている。並行して、実際の空間をとりあげて、空間の意味について考察を加えている。

■公開研究会の開催

2008年6月9日

「生理計測による空間評価研究の可能性」61名参加

2008年10月24日

「愛知淑徳中学校・高等学校の「関係性のデザイン」をめぐって」
(見学会と研究会)44名参加 設計方法小委員会と共催 ※1

2008年12月20日

「名作といわれたオープンプラン小学校の現在(いま)ー 学びの場を開くことの意味 ー」52名参加 教育施設小委員会と共催

2009年10月17日

「共に暮らす、児童養護施設」29名参加 福祉施設小委員会と共催

■委員会内部での見学会＋研究会

・2009年7月3日 「サレジオ学園/サレジオ小学校・中学校」
見学会＋設計者を招いた意見交換会 ※2

■ミニ研究会 若手研究者による研究発表。委員会開催にあわせ実施。

2008年7月22日(太幡英亮氏) 2009年5月15日(石垣文氏)

2010年2月17日(遠田敦氏)

■出版計画

『建築・都市計画のための調査・分析方法』の改訂版。2010年度に刊行の予定。



※1



※2

当小委員会では、環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す

■主な小委員会活動

1. 場所WGによる単行本『まちの居場所をみつける／つくる～思い思いに過ごせる場所を求めて～』の刊行をめざした公開研究会を開催し、執筆・編集をほぼ完了(2010年大会前に刊行予定)。

刊行の主旨:新しい社会の動きとして「まちかどの居場所」の事例紹介とその意味や価値の分析・解説を行い、専門家にとっては今後の計画の参考に、一般の人にとっては自分の環境に照らし合わせて、身近な場所の意味や価値に気づく助けとする。

2. 環境行動研究に関する基本図書・文献リストの作成。

目的と特徴:各委員の個人名付きの関連文献のレビューとデータベース化を行うための資料を収集した。

3. ジェレミー・リュウ氏を講師を招いて「ボストンのチャイナタウン再開発計画」に関連して、住民が自然に集う場所づくりをどのように行ったかについて研究会を開催した。



仮設de 仮設カフェ(新潟):
仮設住宅地に場所を作り出す試み



はっぴーひろば(常滑市):
地域住民の支援を得て運営される交流の場



ジャワ島の伝統的ポーチ空間

建築計画委員会・計画基礎運営委員会
ノーマライゼーション環境小委員会
2008～2009年度活動報告

■障害をもつ学生等の大学生生活環境に関する研究会

2008年度：公開研究会および広島大学アクセシビリティセンター見学会の実施

2009年度：大会PDとして「大学における生活環境のノーマライゼーション」を開催

→ 研究内容を深め刊行物の作成を検討中

■公開研究会の実施

2009年3月14日13:30～17:15

「防火対策強化で揺らぐ高齢者・障害者の地域生活確保の安定性」に関する研究会の実施

■大会時見学会の実施

2008年度：コープ・デイサービス山手はいから坂
鞆の浦さくらホーム

2009年度：仙台キリスト教育児院

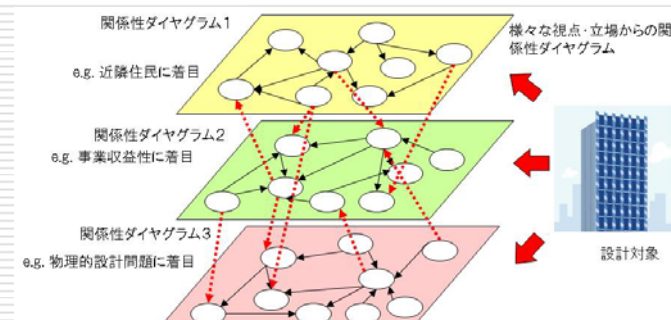


設計方法小委員会 2008～2009年度・活動報告

■「関係性のデザイン」に関する事例収集・調査研究活動

1. 事例収集(継続)
2. 「関係性のデザインマップ」の検討。

「関係性のデザインマップ(ダイアグラム)」の提案



■研究会の開催

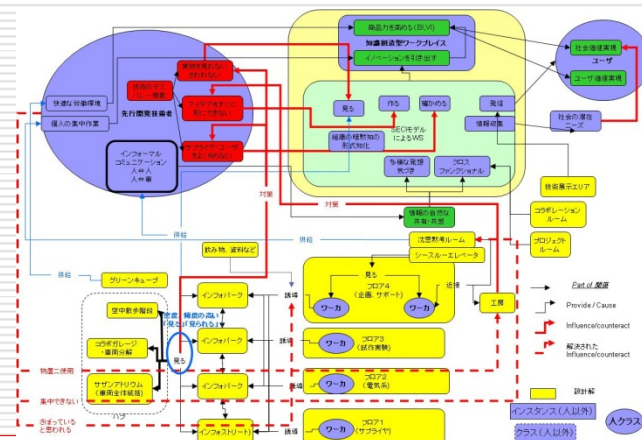
1. 内部研究会：日産先進技術開発センター(6/4)
2. 公開研究会：愛知淑徳中高(10/24:参加者数44名)

■デザイン研究関連他学会との連携

1. デザインシンポジウム2008共催
 - デザイン、設計工学、機械、精密、人工知能の各学会
 - 参加者数:191名
 - 関係性のデザイン・マップの対外発表
2. デザインシンポジウム2010の企画立案
 - 2010年11月25-26日予定
 - 場所:首都大学東京・産業技術大学院大学

(東京都品川区東大井1-10-40)

「関係性のデザインマップ」による事例分析



- ### 3. ホームページによる情報発信

設計情報小委員会 2009年度活動報告

当小委員会では、見学会や意匠・構造・設備の専門家を交えた建築設計に関わる「情報」についての研究会を重ね、その成果を出版物としてまとめる活動を行ってきた。また、「BIM」についてのシンポジウムを開催し、設計方法の可能性についても検討してきた。

■今年度の主な小委員会活動

4月16日・・・リネア見学会、若手構造設計者講演

5月12日、10月16日、12月15日、2月1日・・・出版WG

11月24日・・・講演:「設計プログラム／予言論」(湯本長伯・九大)

3月24日・・・シンポジウム開催:「BIMで設計は変わるか？」

他



■成果と課題

1) 建築設計のための「ゆく・みる・はかる・考える」(鹿島出版)脱稿 2010年9月刊行予定

2) 「設計プログラム論」(鹿島出版)執筆中



教会・独立住宅・集合住宅の見学会

構法計画運営小委員会 2008-9年度活動報告

当運営委員会は、傘下の3小委員会(各部構法設計小委員会、木造建築構法小委員会、オープンビルディング小委員会)を対象とした構法関連研究の情報交換を通じて、俯瞰的・長期的視点に立った研究の体系化に関する議論を重ねることを目的に活動を行っている。2008-09年度は、各小委員会の成果報告、博士論文の発表会とミニ講演会を行い、活発な議論を行った。

■運営委員会活動

7月10日・・・構法関連博士論文発表会 ①小規模住宅生産者の存在形態に関する研究 ②バルコニーを中心に見た都市居住空間の形成過程ーバルセロナ旧市街と拡張地域を対象にー ③自己組織性のある建築・都市デザインに関する研究

10月2日・・・構法関連博士論文発表会

①建物のコンバージョンに対する政策手段に関する研究 ②ハケ岳山麓における板倉構法の研究

11月26日・・・オープンビルディング小委員会報告会

1月20日・・・各部構法設計小委員会報告会

3月11日・・・木造建築構法小委員会報告会

5月19日・・・構法関連博士論文発表会 ①ニューヨーク市における構想集合住宅の修繕行為に関する研究
②空間構成と運営管理に着目した既存公共ストックマネジメントに関する研究

6月30日・・・構法関連博士論文発表会 ①戸建住宅の外壁における防災性能評価とその将来変化予測
②山形盆地におけるモミドの機能と構法に関する研究

9月 28日・・・構法関連研究者によるミニ講演会
小西敏正先生「構法に関連してやってきたこと」

■成果と課題

各々の発表に対して、幅広い専門分野から様々な議論がなされ、情報収集・情報交換の観点から各々の小委員会活動に役立つ成果となった。

特にミニ講演会については、今後も継続的に続けていく予定であるが、それ自身が貴重な研究資源であることから、関係者で共有・利用できるようアーカイブ化していくことが望ましく、その具体的方法等の議論を含め、今後の課題としたい。

各部構法設計小委員会 2008－9年度活動報告

目的 1. 各部構法の実態把握・問題点整理

見学会 (09年12月10日)
「(仮称)大宮下町3 丁目マンション計画」

設計・施工: 鹿島建設

- ・在来技術の組合せによる最適化
- ・大型ダブルチューブ構造。住戸内は無梁
- ・サイトPC

活動



2. 時代を反映した各部構法の変容過程調査

変遷研究の対象リストアップ (08年5月22日、7月1日、11月20日、09年1月15日)

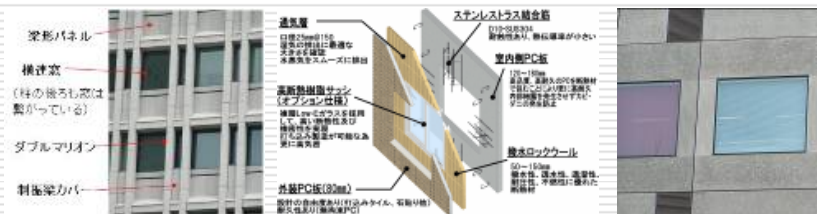
作品選集、BELCA賞などからの建物事例ピックアップ
時代を反映するキーワードの抽出

各部構法ミニ講演会 (09年7月8日、11月18日)
「1990～2000年代の技術の動向」

① カーテンウォール(力防協、PCSA)

メタル: エアフロー、ダブルスキン、ルーバー

PC: 制振機能、外断熱、表面仕上げ

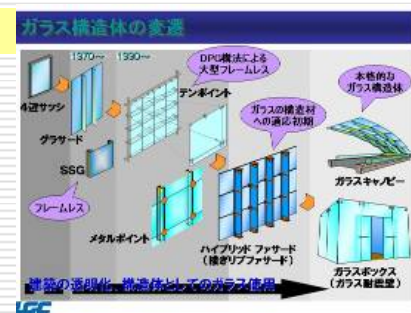


② ガラス(板硝子協会)

ガラススクリーン、

SSG、DPG、

ガラス構造体



成果

現在求められる技術、経済性 及び
一般に定着した構法の重要性の把握

技術動向の詳細な把握
→ 記録(将来の出版計画への準備)

木造建築構法小委員会 2008－9年度活動報告

当小委員会では、

木造建築の長寿命化、既存建築物の再生・利活用というテーマでの事例収集、構法および用語の検討を中心に活動を行った。

■主な小委員会活動

08年7月18日・・・研究会1「長崎県対馬市における伝統木造構法の特性—平柱を用いた架構法を中心として—」

7月27日・・・研究会2「木造架構設計手法に関する話題」

11月17日・・・研究会3「既存建物の活用事例紹介」

1月23日・・・研究会4「イギリス木造民家の架構類型と、部材用語の日英(欧)比較について」

09年5月28日・・・研究会1「企業による古民家再生の事例紹介」

7月18日・・・伝統木造用語WG「民家の部材名称の地域性の検討」

7月27日・・・研究会2「東京駅丸ノ内本屋戦災復興工事における木造小屋組みについて—新興木構造について—」

10月6日・・・見学会1「東京駅丸ノ内本屋修理工事現場見学」

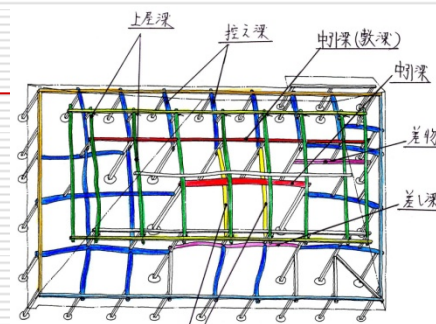
1月12日・・・研究会3「長崎・上五島町の江袋教会の修復の報告」

2月23日・・・研究会4「福勝寺本堂の垂木用材の劣化調査」

■成果と課題

(1) **研究会・見学会** 地域構法の特性、木造架構設計手法の問題点、民家の再生事例の検討を行い、設置目的にかなう情報が得られた。今後収集した情報のまとめ方や活用方法が課題である。

(2) **伝統木造用語WG** 日本国内の民家の構造部材名称の地域的な多様性の一端を明らかにした。今後は、国内の民家を対象とした地域呼称の精査、適切な標準部材名称の提案、海外建築用語との対応からみた英語表記の妥当性の検討などが課題である。



江袋教会(柿森和年撮影)

オープンビルディング小委員会2008-9年度 活動報告

【目的】

- 膨大な既存建築物のストックを環境負荷の少ない方法で効果的に改修・転用していく技術体系の確立が求められており、オープンビルディングの計画手法はその実現に大いに役立つ可能性がある。
- 本小委員会では、①レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践、②アーバンティッシュの概念整理とその更新手法、③ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方の検討に取り組む。
- 同時に、CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。

【活動内容】

08年度: 8/5 集合住宅再生事例の見学会, 10/6 オープンビルディング関連の研究活動の動向報告, 2/2 オープンビルディング事例報告
09年度: 5/13 マンション建て替えについて講演, 7/7 ラフバラ大学との研究交流, 10/8 ルンド大学との研究交流

【成果】

- ① SI技術の開発・実践WG: レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践に向けた議論が交わされた。
- ② アーバンティッシュの更新手法WG: アーバンティッシュの概念整理（右表）と更新手法の検討に向けた議論が交わされた。
- ③ ストック時代の構法・産業・制度WG: ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方について議論が交わされた。



No.	プロジェクト名	写真	概要
1	宇部市中心市街地街なか再生事業 中央三丁目地区		宇部市中心市街地の活みの中で、行政・地元・市民により、定住人口回復を主として約1.2haの地区を事業と上物整備の運動が行った。 その結果、地区の定住となり、建替え促進による環境の向上、協調的なター通りだった商店街のみ、周辺への波及効果ある。
2	ひばりが丘団地ストック再生実践実験(ルネッサンス計画)		URが管理する既存住棟するニーズに幅広く対応改修技術の確立を目指プロジェクト(ルネッサンス計画) 建て替えと住戸単位の代わる第3の改修手法と位のリニューアル。
3	黒石市中心市街地活性化基本計画、黒石市商業タウンマネジメント構想		江戸時代から残る町並を守りながら、街区の裏(かくじ)を再編・整備する。
4	つくば市根・金田台地区緑住農一体型住宅地		地区周囲を緑地や田畑の土地区画整理事業の元・専門家の連携により要コンセプトとして緑や農、定借事業を活用しためている。 TX沿線開発の他地区にの手法によるまちづくり。
5	長崎市の浦地区緑住斜面部構想		車のアクセスできる街路く、未接道宅地が90%のではあるが、斜面地の活かした新規中層住宅と旧の共存する市民事業に、進めている。 道路に接する宅地と

■活動

住居系、施設系、基礎系、構法系を横断する建築計画の課題に取り組む3つの小委員会を運営

●公共施設マネジメント小委員会

統合された自治体(地方政府)および中央政府(省庁)等が所有、管理、運営する公共施設等を、社会基盤と公共サービス機能配置の点から見直し、それらを体系的継続的地域的にマネージ(経営、運営)、プランニング(計画)、デザイン(改修、新築)するための計画研究を行う。全国的メンバーで構成。

●建築計画技術小委員会

中央政府および自治体が定める建築計画に関わる各種の制度、あるいは民間団体、NPO等がつくるルールと仕組み等の計画手法について、計画技術(ハード、ソフト)の視点から理論構築を行い制度設計やまちづくりの方法に提言を行うための基礎的研究を行う。

●建築設計計画評価小委員会

現代建築の設計計画における評価についての論点と評価軸の設定を目標として研究活動。建築家の自邸の見学会をかさねて分析の枠組みを積み上げている。

各小委員会活動は次ページから

■設置目的

- ・少子高齢化社会における公共施設マネジメント研究の体系化とビジョン提示による社会貢献
- ・建築計画で蓄積された知見の少子高齢化社会における公共施設マネジメントへの反映
- ・少子高齢化社会における自治体の持続的な公共施設マネジメントシステムのあり方

■活動

2009年度の主な小委員会活動

シンポジウム

- 1.公共施設のライフサイクルマネジメント研究の成果について
- 2.地域生活者がデザインする社会システム

大会研究協議会

- 1.「公共建築の再構築と方針へ向けての建築計画研究からの提言」

出版準備

出版計画を準備し、目次の整理を行い、出版社と交渉をおこなった。現時点で、出版内容と出版社との意向が合わず、引き受けてくれる出版社を引き続き検討中である。

■成果と課題

公共施設のマネジメントの視点として、大きく、行政全体の公共施設を統合的、合理的にマネジメントする視点と個別施設の活動や施設配置、施設内容から計画論的にアプローチする視点がある。

本小委員会では、この二つの方向性が異なる二つの視点を調整しつつ、これまでの計画学が蓄積した知見を活用した公共施設マネジメント論の構築を目指している。この2年の活動において、大きな方向性が見えた。継続して、成果の出版計画を検討したい。

計画技術小委員会 2009年度活動報告

□ 工業社会から知識社会への転換期における計画技術のあり方を探求した。

- 建築計画の方法・知識の整備、社会制度や建築教育のあり方の検討
- 計画と設計、研究と実践をリンクする仕組みの探求

既存ストックの再生(求道会館、求道学舎)

□ 今年度の主な小委員会活動

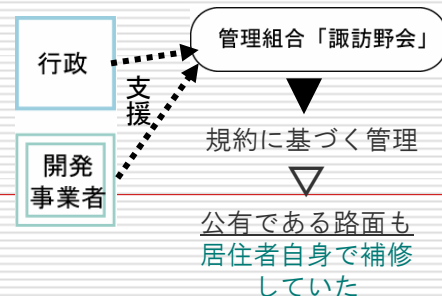
- 06月18日 求道学舎・求道会館の保存と再生事業(近角委員)
- 09月09日 戸建て住宅地の住環境運営(大月委員)
- 11月09日 小規模事務所ビルのリノベーション計画(吉村委員)
- 03月29日(予定)都市景観デザイン(保存・再生・創造)(門内主査)

◆ 成果と課題

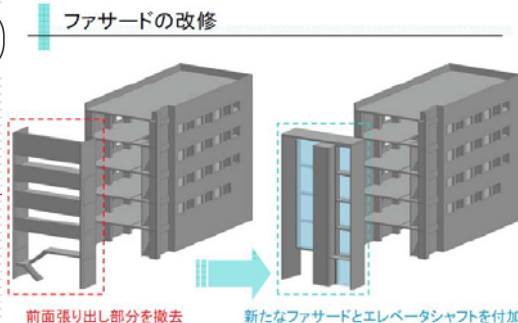
- 建築を多種多様な領域の結節点とみなす「開かれた建築計画」のあり方を模索するために、**計画・設計・運営を含むトータルなプロセスに関わる計画技術のあり方**を探求した(コンバージョン、リノベーション、公・共・私を関係づける住環境マネジメント、都市景観デザインなど)。
- 2年間にわたる事例研究をふまえて、**生活の豊かさを追求する知識社会に対応した建築計画の計画技術**を探求し、今後の検討課題を整理した。



住環境マネジメント(公・共・私の関係)



事務所ビルのリノベーション



コミュニティ・ガバナンスに基づく
町並みの景観形成



建築設計計画評価小委員会 2009年度活動報告

当小委員会では、建築評価の基準と方法の提案に向け、「作品選集」のデータベース構築と評価分析、住宅作品を現地見学と設計者へのヒアリングにより計画学の視点から評価する、などの活動を行った。

■今年度の主な小委員会活動

- 4月～10月・・・「作品選集」のデータベース化
- 10月～3月・・・評価分析
- 7月25日・・・梅澤邸見学・ヒアリング
- 9月26日・・・篠原邸見学・ヒアリング

■成果と課題

- 1) 建築雑誌に連載「建築課の自邸評価」として掲載
- 2) 今後、「住宅建築」に掲載予定
- 3) 「作品選集」のデータ化・評価分析の第1段階完了

下記2点を課題として、さらに議論を進める

- 1) 住宅設計者と計画研究者の座談会の開催
- 2) 「建築家の自邸-2011」(彰国社)出版準備



IRONHOUSE 調査風景